

## Microsoft SQL Server ライセンス対応

		Enterprise	Standard
ベースモデル	ベースモデル説明	すべての機能を使えるうえ、データベースで使用できるCPUの最大数にも制限がない最上位のエディションです。大規模のシステム管理や開発に向いていますが、制限がない分、最もライセンス料金が高くなっています。	企業の部門や小規模のアプリ開発向けに作られた、SQL Serverの標準的なエディションです。コアやサーバ、クライアント端末などの単位でライセンスが分かれています。
コアベースモデル	稼働させるサーバーのコア数に基づいて価格が変わるライセンスモデル  サーバーにアクセスするクライアント側にライセンスは不要です。 コア数に基づくライセンスモデルですが、1CPU(仮想環境では1OS)につき最低4コアからの販売となっているため、1CPUでシングルコアの場合でも最低数の4コア分の費用が必要となります。 1CPU1コア→4コア分のライセンス 1CPU4コア→4コア分のライセンス 1CPU6コア→6コア分のライセンス 2CPU2コア→8コア分のライセンス(4コア×2)	○  2Coreパックの利用 ※SQL Server 2019 Enterprise Core	○  2Coreパックの利用 SQL Server 2019 Standard Core
サーバー/CALモデル	物理または仮想OS環境毎に1サーバーライセンスが必要です。  加えて、サーバーにアクセスする端末にCAL(クライアントアクセスライセンス)が必要となります。 コアベースモデルのように最低購入数指定はありません。  サーバー1台で3人が利用→1サーバーライセンス + 3CAL サーバー2台で3人が利用→2サーバーライセンス + 3CAL 物理サーバー1台+仮想サーバー2台を3人が利用→3サーバーライセンス + 3CAL  ※UserまたはDeviceの選び方 (例: ユーザー数が決まっている場合は User CALを人数分、アクセスするデバイス数が特定されていて複数で利用する場合はDevice CALを選択する)	×	○  SQL Server 2019 Standard Edition  + SQL Server 2019 - Device CAL または SQL Server 2019 - User CAL のいずれかを選び購入